

超短編⑫

「青空クラブ」(20020820)

私のホームページの訪問者が1千人を突破したのと時を同じくして、青空クラブの会員が1万人を突破した。

私のホームページの訪問者が増えることは、私にとっては単純に嬉しいことであるが、青空クラブの会員が単純に増えることは、クラブの会長の私にとっては全く嬉しいことではない。私としては、クラブの性格上、会員は多くても300人程度に止めたかった。

会員数300人を超えたときに、会員の募集を止めるべきだったと、今更ながらに悔やんでいる。

会員数500人を超えるあたりから、会の本来の主旨を正確に理解しない、私から見たら孫弟子のような者が、勝手気ままに募集の暴走に走ってしまった。

あれよあれよという間に会員は1千人を突破し、2千、4千と増えていった。

まるで、ねずみ算のような増え方だった。

会員の増加を追っかけるようにして、クラブの組織そのものも整備されていた。

会長の私としては、本当に単純な組織であって欲しかった。

私の下にせいぜい300人の会員。これが理想だった。

5年前にクラブを立ち上げたときは会員の全てが東京人だったのに、いつの間にか47都道府県の県庁所在地の全てに支部ができていた。それだけではない、8ヶ月前にニューヨーク支部、半年前にロンドンとパリとシドニーに、3ヶ月前にはソウルと北京にそれぞれ支部ができた。

そのうち英語も話せない私は会長失格だという意見が出てくるのではないかと、いつしかつまらない心配事もできてしまった。

特にアメリカ人の会員が増えているという。最近の報告によると1年後には日本の会員数を上回ると予想している。

冗談ではない、そんなことになったら、それこそ会長が「英語は話せません」では済まないだろう。

アメリカ人会員が増えている理由は分かっている。

昨年の9月11日の旅客機テロが原因だ。

「いっどこから何が降ってくるか分からない恐ろしい世の中になってしまったから、いつも空を監視してなきや」って雰囲気、きつとアメリカ中に蔓延しているんだと思う。

私は、だからってなんで青空クラブなんだって思っているんだけれど。

それはそうと、来年はアメリカでの行事も決定してしまっている。

具体的内容についてはこれから詰めていくのだけど、問題はアメリカで行事を行うという重要事項が私の決裁を経ないで決定してしまっていたということだ。

「会長は了承いたしました」って言われたけれど、そんなこと訊かれた記憶もないし、もちろん了承なんてした覚えはない。

だいたい、軽く訊かれて、軽く答えられるようなことじゃない。

だいたい私は英語も話せないんだから、絶対に了承なんかするはずない。
今更愚痴っても仕方ないけれど。

会員数1万人、全くすごい数字だ。

5年前には考えることすらできなかった。

正直言ってクラブの運営については、お手上げ状態だ。

もう、片手間にやってくれるものではない。

もともとのスタッフの中心人物は私を含め皆本職を別に持っている。

だいたい、会員から会費を取っているわけではないから、青空クラブで生計を立てることなど考えたことすらなかった。

会員数が増えたのも、クラブが組織の体裁を整えることができたのも、単に優秀な会員達のおかげである。

彼らは専ら立ち上げ時のメンバーではなく、それ以後に加入した者達だった。

今ではクラブの本部には10名を越す専従の職員がいる。

青空クラブは彼らの夢であり、生きがいである。

いてもたっても青空クラブである。

青空クラブという組織を大きくすることが、彼らの仕事である。

この勢いは創業者の私にも止められないし、誰にも止められないだろう。

誤算だったのは、青空クラブにこれほどまでに思い入れる人間が現れることを、私が全く考慮していなかったことだ。

この秋、私は正式に青空クラブの会長を辞任することに決めた。

10月にはアメリカ代表が訪日するという。それまでには辞任しているはずだ。

私の今の心境としては、青空クラブがいつまでも青空クラブ本来の主旨を忘れずに活動して欲しいという、ただそれだけである。

超短編シリーズはフィクションです。念のため